

PATENT ABSTRACTS OF JAPAN

(11)Publication number : 04-143791

(43)Date of publication of application : 18.05.1992

(51)Int.Cl.

G09G 3/36

(21)Application number : 02-266365

(71)Applicant : TOSHIBA CORP

TOSHIBA MICRO ELECTRON KK

(22)Date of filing : 05.10.1990

(72)Inventor : ARAKAWA TAKASHI

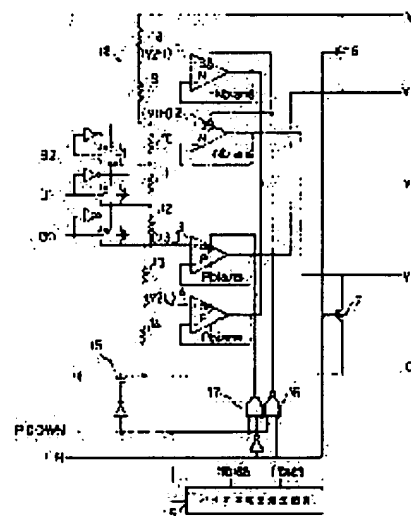
MOGI HIROYUKI

(54) POWER SOURCE CIRCUIT FOR DRIVING LIQUID CRYSTAL DISPLAY

(57)Abstract:

PURPOSE: To reduce the output resistance, and also, to reduce the power consumption by reducing a current for allowing an operational amplifier which is not used to function, in a period in which an output of the operational amplifier is not used as a liquid crystal power source.

CONSTITUTION: A voltage level which becomes an input of operational amplifiers 1- 4 is obtained by a voltage dividing circuit 18 for dividing a power supply voltage V by resistances 8 - 14, and a pre-bias value applied to a liquid crystal can be set by a program. Also, when a PDOWN signal for controlling a display power source is inputted from a CPU part, an N channel transistor 15 is cut off, and also, by setting four operational amplifiers 1 - 4 to a turn-off state, and cutting the current consumption of a bias voltage generating circuit 5, the power consumption of a liquid crystal driving circuit is suppressed completely. In such a way, the output resistance is small, and also, the low power consumption can be realized, and the resistance value control for obtaining a prescribed voltage can be executed simply.



LEGAL STATUS

[Date of request for examination]

[Date of sending the examiner's decision of rejection]

[Kind of final disposal of application other than the examiner's decision of rejection or application converted registration]

[Date of final disposal for application]

[Patent number]

[Date of registration]

[Number of appeal against examiner's decision of rejection]

[Date of requesting appeal against examiner's decision of rejection]

[Date of extinction of right]

Copyright (C); 1998,2003 Japan Patent Office

⑫ 公開特許公報(A) 平4-143791

⑤ Int. Cl.⁵

識別記号

庁内整理番号

⑬ 公開 平成4年(1992)5月18日

G 09 G 3/36

7926-5G

審査請求 未請求 請求項の数 2 (全6頁)

⑭ 発明の名称 液晶表示器駆動電源回路

⑯ 特 願 平2-266365

⑰ 出 願 平2(1990)10月5日

⑱ 発 明 者 荒 川 隆 志 神奈川県川崎市川崎区駅前本町25番地1 東芝マイクロエレクトロニクス株式会社内

⑲ 発 明 者 茂 木 宏 之 神奈川県川崎市川崎区駅前本町25番地1 東芝マイクロエレクトロニクス株式会社内

⑳ 出 願 人 株 式 会 社 東 芝 神奈川県川崎市幸区堀川町72番地

㉑ 出 願 人 東芝マイクロエレクトロニクス株式会社 神奈川県川崎市川崎区駅前本町25番地1

㉒ 代 理 人 弁理士 鈴江 武彦 外3名

明 細 書

3. 発明の詳細な説明

〔発明の目的〕

(産業上の利用分野)

本発明は液晶表示器の駆動信号を発生させる液晶表示器駆動電源回路に関する。

(従来の技術)

従来、液晶表示器のダイナミック駆動は、最高電位電源と最低電位電源のほか、これらの電位間の電圧レベル(以下中間電圧レベルと記す)を通常4つ用意し、表示データにしたがって適切な電圧レベルを液晶表示器の各セグメント端子と各コモン端子に印加することにより行なわれる。この中間電圧レベルは、抵抗器による電圧分割によって生成されるのが一般的である。第8図に示す従来回路例では、液晶印加電圧を交流化するためFR信号によって、第9図の図表、第12図の波形からも分かるように、FR=0の時の最高電位V、中間電圧レベルV_{2H}、V_{1H}、最低電位0の組と、FR=1の時の最高電位V、中間電圧レベルV_{3L}、V_{2L}、最低電位0の組とを交互

1. 発明の名称

液晶表示器駆動電源回路

2. 特許請求の範囲

(1) 液晶表示器に必要とされる中間電圧レベルを発生させる電圧分割回路と、該回路の電圧を入力としてボルテージフォロア動作を行なうオペアンプとを有し、該オペアンプは、液晶印加電圧を交流化するための信号に応じて前記オペアンプの出力が液晶電源として使用されない期間には、不使用のオペアンプを機能させる電流が低減化されるものであることを特徴とする液晶表示器駆動電源回路。

(2) 前記中間電圧レベルを発生させる電圧分割回路は、該回路の一部の抵抗を更に細分化してその抵抗を、外部からの信号によるスイッチ動作で選択的に機能させる請求項1に記載の液晶表示器駆動電源回路。

に発生させ、これらの電圧は第10図のセグメント出力レベル選択回路、第11図のコモン出力レベル選択回路を通じて液晶表示器に印加される。この回路例は1/5プリバイアスの場合で、 $R1 = R4 = 300k\Omega$ 、 $R2 = R3 = 100k\Omega$ 、 $r1 = r4 = 30k\Omega$ 、 $r2 = r3 = 10k\Omega$ とした。第12図の波形はコモン出力を8本持つ1/8デューティの場合を示している。第12図には複数のセグメント出力とコモン出力のうちのそれぞれ1本のみを例示した。

この回路において、 ϕC 信号はコモン選択信号の切換タイミングを示すパルス信号であって、コモン信号の切換時に電圧分割回路の出力抵抗を下げ、液晶の応答を早くするためのものである。すなわち、電圧 V を分割する抵抗 $R1$ 、 $R2$ 、 $R3$ 、 $R4$ に低い抵抗値を持つ抵抗 $r1$ 、 $r2$ 、 $r3$ 、 $r4$ を並列に接続することにより、液晶表示器のもつキャパシタンスに対する充放電時間を短縮させようとする。

ンプとを有し、該オペアンプは、液晶印加電圧を交流化するための信号に応じて前記オペアンプの出力が液晶電源として使用されない期間には、不使用のオペアンプを機能させる電流が低減化されるものであることを特徴とする液晶表示器駆動電源回路である。また本発明は、

(2) 前記中間電圧レベルを発生させる電圧分割回路は、該回路の一部の抵抗を更に細分化してその抵抗を、外部からの信号によるスイッチ動作で選択的に機能させる上記(1)に記載の液晶表示器駆動電源回路である。

即ち本発明は、オペアンプとして、外部からの信号によって消費電力を削減する機能を持ったものを用い、液晶表示器駆動に必要な中間レベル電圧を低い出力抵抗で出力できるようにしておく。液晶印加電圧を交流化するための信号によって、ある中間レベル電圧が電源として不要である期間には、その中間レベル電圧を出力するオペアンプの消費電力を減少させる。これにより、すべてのオペアンプを能動状態にする第13図のような場合

(発明が解決しようとする課題)

しかしながら、表示画素数の多い液晶表示器は、そのキャパシタンスが大きく、電圧分割回路の出力抵抗を十分に小さくしないと満足な表示品位を得られないが、電圧分割回路の抵抗を小さくすると、消費電流が増大するという欠点がある。

中間電圧レベル電源の出力抵抗を小さくするためにオペアンプを使用した例を第13図に示す。この回路は1/5プリバイアスの場合の例で、 $R1 = R2 = R3 = R4 = R5$ である。この第13図の回路ではオペアンプ $OP1 \sim OP4$ は常に能動状態であって、消費電流は大きい。

そこで本発明は、充分な表示品位が得られるように出力抵抗が小さく、かつ消費電力が小さい液晶表示器駆動用の電源を得ることを目的とする。

(課題を解決するための手段と作用)

本発明は、

(1) 液晶表示器に必要とされる中間電圧レベルを発生させる電圧分割回路と、該回路の電圧を入力としてボルテージフォロア動作を行なうオペア

よりも、消費電力を小さくできる。また本発明は上記(2)の構成で、所定プリバイアスを得る電圧分割回路の抵抗値を、簡単なソフトウェアで実現できるようにしたものである。

(実施例)

以下図面を参照して本発明の一実施例を説明する。C-MOS集積回路による液晶表示器駆動回路内蔵ワンチップマイクロコンピュータに適用した本実施例の電源回路を第1図に示す。この電源回路で生成される中間電圧レベルは、 $V3$ 、 $V2$ 、 $V1$ の各点より出力され、第10図に示したセグメント出力レベル選択回路、第11図に示したコモン出力レベル選択回路に供給されている。オペアンプ1及び2は、初段入力部にNチャネルMOSFETを使用したオペアンプ、オペアンプ3及び4は、初段入力部にPチャネルMOSFETを使用したオペアンプであり、その回路の詳細をそれぞれ第2図、第3図に示す。これらのオペアンプは、OFF(オフ)信号入力端子を持ち、この入力信号により、電力消費が0であるオフ状態とすること

ができる。またオフ状態においては、出力端子が高インピーダンス状態になるという特徴がある。各オペアンプは出力を－入力に帰還させたボルテージフォロウ構成になっており、能動状態であれば＋入元に印加された電圧レベルが低い出力インピーダンスで出力に現われる。

第2図のオペアンプは、駆動段21、出力段22とを有し、トランジスタ23でオペアンプ電流をカットオフ可能としている。また第3図のオペアンプは駆動段31、出力段32とを有し、トランジスタ33でオペアンプ電流をカットオフ可能としている。

バイアス電圧発生回路5は、オペアンプ内部で定電流動作をさせるNチャネルのトランジスタ24、25及びPチャネルのトランジスタ34、35に対してそれぞれゲートバイアス電圧Nbias及びPbiasを供給している。このための回路の詳細を第4図に示す。オペアンプの入力となる電圧レベルは抵抗8、9、10、11、12、13、14により電源電圧Vを分割する電圧分割回路

13で得ている。ここで、抵抗10、11、12は第13図の抵抗R3に相当し、これら抵抗には、それを短絡するためのアナログスイッチS0、S1、S2があり、抵抗10、11、12の合成抵抗値が、CPU部から送られるB2、B1、B0によって決定されるように構成されている。これによって、液晶に印加されるプリバイアス値をプログラムによって設定できる。CPU部からはさらに、表示用電源制御のためのPDOWN信号が入力される。この信号が“1”レベル（電源電圧Vのレベル）の場合には、Nチャネルトランジスタ15がカットオフするとともに、ゲート回路16、17を通じて、4つのオペアンプ1～4をオフ状態とし、さらに、バイアス電圧発生回路5の消費電流をカットすることにより液晶駆動回路の電力消費を完全に抑える。すなわち表示機能を 사용하지ないときには、PDOWN信号を“1”とすることでシステムの消費電力を削減できる。抵抗8、9、13、14の抵抗値は等しい、この値をRとし、抵抗10、11、12の合成抵抗値をr

とする。オペアンプ1、2、3、4の＋入力端子に印加される中間電圧レベルをそれぞれV2H、V1H、V3L、V2Lと表わせば、

$$V2H = \frac{3R + r}{4R + r} V$$

$$V1H = \frac{2R + r}{4R + r} V$$

$$V3L = \frac{2R}{4R + r} V$$

$$V2L = \frac{R}{4R + r} V$$

である。またプリバイアスの値は、

$$\frac{R}{4R + r} V$$

である。本実施例ではR=200kΩ、抵抗10、11、12をそれぞれ400kΩ、200kΩ、100kΩに設定している。抵抗10、11、12を短絡しているアナログスイッチS0～S2のオン抵抗はこれらの抵抗値よりじゅうぶん小さく、ほぼ0とみなせるように設計されている。し

たがって合成抵抗値rは(B2、B1、B0)=(0、0、0)の場合の0から(B2、B1、B0)=(1、1、1)の場合の700kΩまで変換できる。すなわちプリバイアスの値では、V/4からV/1.5まで選定できる。FR信号は、液晶印加電圧を交流化するための信号であり、PDOWN信号が“0”の時には、デューティ比が1/2の交番信号が加えられている。FR信号が“1”の期間では、オペアンプ1、2はオフ状態となり、オペアンプ3、4が能動状態となる。またPチャネルトランジスタ6はカットオフし、Nチャネルトランジスタ7は導通する。したがって、V1点は0レベル（グラウンドレベル）、V2点はV2Lレベル、V3点はV3Lレベルをそれぞれ出力する。一方、FR信号が“0”の期間では、オペアンプ1、2は能動状態、オペアンプ3、4はオフ状態となり、Pチャネルトランジスタ6が導通し、Nチャネルトランジスタ7はカットオフする。したがって、V1点はV1Hレベル、V2点はV2Hレベル、V3点はVレベル（電源電圧

レベル)をそれぞれ出力する。以上のことより、FR信号とV1、V2、V3の各点の出力電圧レベルの関係は第5図に示すタイミングチャートに表わすことができる。第5図では、抵抗8、9、13、14の抵抗値Rと抵抗10、11、12の合成抵抗値rとが等しい、1/5ブリバイアスの場合の中間電圧レベルを例として示している。

なお、オフ状態を持たせたオペアンプとしては、第2図、第3図のほか、第6図、第7図に示すものが考えられる。ここで互に対応する個所には対応符号を用いかつグッシュを付しておく。

上記実施例によれば、第13図の如きオペアンプをバッファとして用いた液晶電源回路で得られるのと同じ表示品位が得られ、しかも、その消費電流はほぼ半減させることができる。また第8図に示す電圧分割抵抗回路では、液晶に加えるブリバイアス値を変化させるためには、少なくとも4つの抵抗値(r1、r4、R1、R4あるいはr2、r3、R2、R3)を同時に変化させる必要があり、ソフトウェアによるブリバイアス値制

御を行なうためには回路要素の量が多くなり、多くの欠点があるが、第1図の回路では、CPUからの制御信号B0～B2で実質的に1つの抵抗値(第13図のR3に相当する抵抗10～12)を変化させるだけで済み、容易にソフトウェア制御機能を実現できる特長がある。

〔発明の効果〕

以上説明した如く本発明によれば、十分な表示品位が得られるように出力抵抗が小さく、かつ低消費電力化が可能で、また所定電圧を得る抵抗値制御が簡単な液晶表示器駆動電源回路が提供できる。

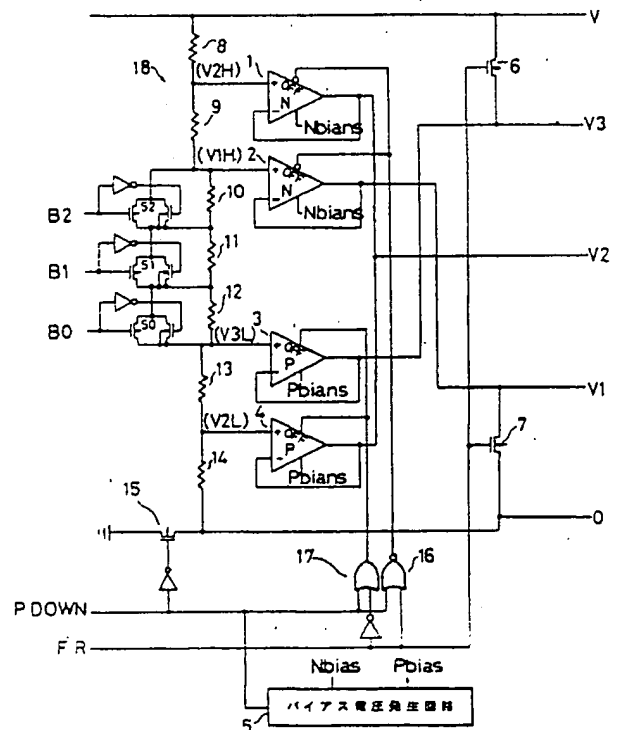
4. 図面の簡単な説明

第1図は本発明の一実施例の回路図、第2図ないし第4図は同回路の一部詳細図、第5図は同回路の作用を示す波形図、第6図、第7図は第2図、第3図の変形例の回路図、第8図は従来例の回路図、第9図は同回路の作用を示す図表、第10、第11図は液晶表示に必要な他の回路図、第12図は第8図ないし第11図の各部タイミング波形

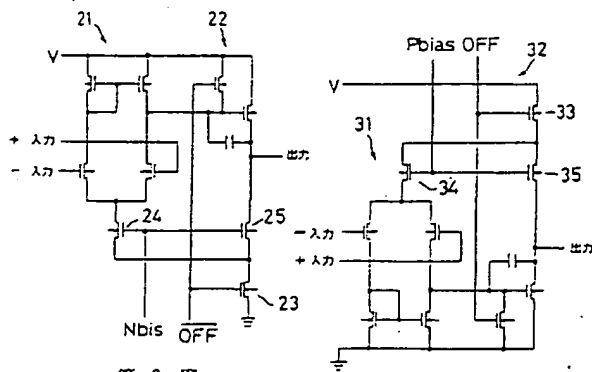
図、第13図は第1図を得る前段階の回路図である。

1、2、3、4…消費電流の制御可能なオペアンプ、5…オペアンプ用のバイアス電圧発生回路、6…Pチャネルトランジスタ、7…Nチャネルトランジスタ、8、9、10、11、12、13、14…中間電圧レベルを発生させる電圧分割用抵抗、15…表示回路電源スイッチ用トランジスタ、16、17…オペアンプの消費電流制御信号を生成するゲート回路、18…電圧分割回路、23、33…オペアンプ電流カット用トランジスタ、S0～S2…アナログスイッチ。

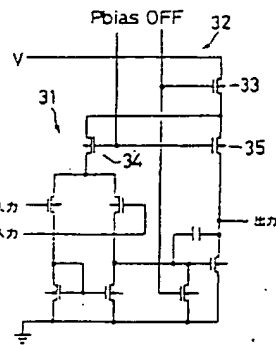
出願人代理人 弁理士 鈴 江 武 彦



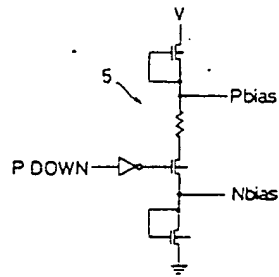
第1図



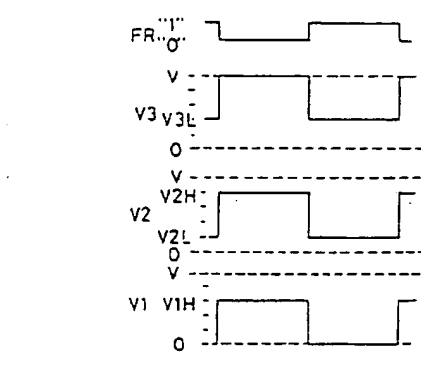
第 2 図



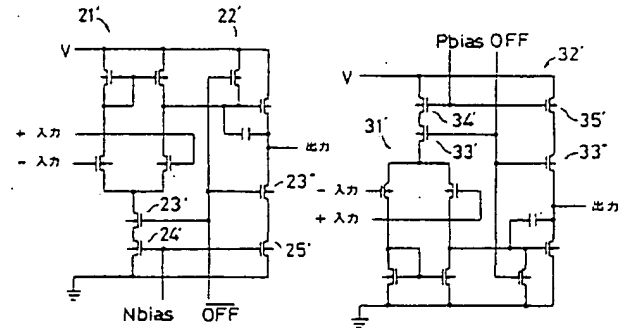
第 3 図



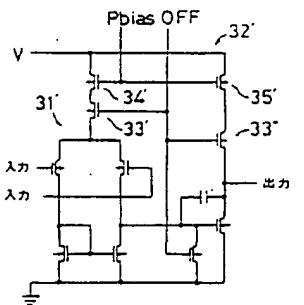
第 4 図



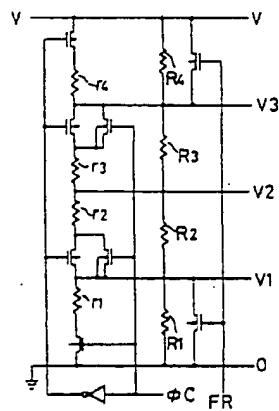
第 5 図



第 6 図



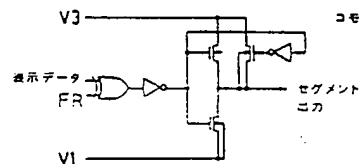
第 7 図



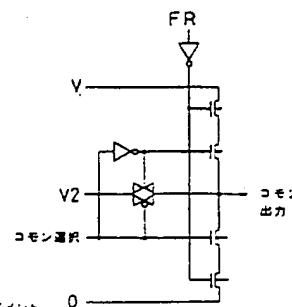
第 8 図

FR	V1	V2	V3
"0"	V1H(=V)	V2H(=V)	V
"1"	V	V2L(=V)	V3L(=V)

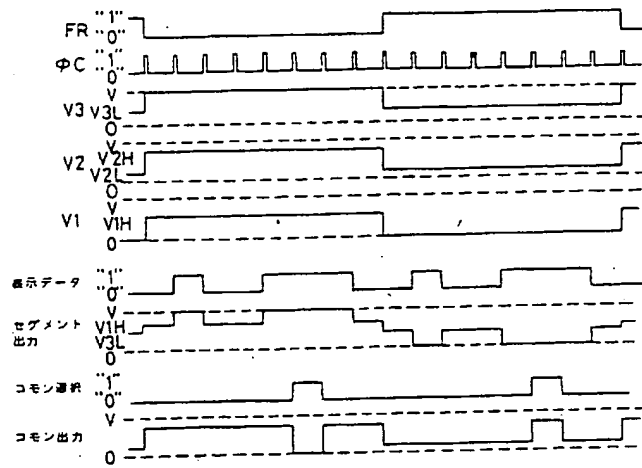
第 9 図



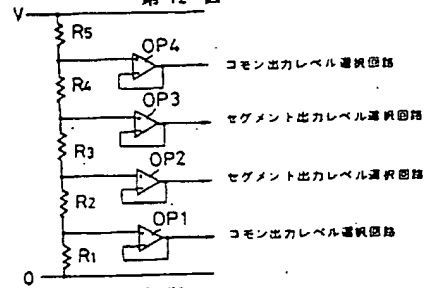
第 10 図



第 11 図



第 12 図



第 13 図

【公報種別】特許法第17条の2の規定による補正の掲載
 【部門区分】第6部門第2区分
 【発行日】平成8年(1996)10月11日

【公開番号】特開平4-143791
 【公開日】平成4年(1992)5月18日
 【年通号数】公開特許公報4-1438
 【出願番号】特願平2-266365
 【国際特許分類第6版】
 G09G 3/36
 【F1】
 G09G 3/36 9378-5G

手続補正書

平成 7. 7. 11 日

特許庁長官 清川 佑二 殿

1. 事件の表示
 特開平 2-266365号

2. 発明の名称
 液晶表示器駆動電圧回路

3. 補正をする者
 事件との関係 特許出願人
 (307) 株式会社 東芝
 (補 正)

4. 代理人
 東京都千代田区森が間3丁目7番2号
 特許内外閣特許事務所内
 〒100 電話03(3502)3181(火代線)
 (5847) 弁護士 岸 江 武 彦

5. 目 的 補 正

6. 補正により増加する請求項の数 6

7. 補正の対象
 明 細 書

8. 補正の内容
 特許請求の範囲を別紙の通り訂正する。



2. 特許請求の範囲

(1) 複数の中間電圧レベルの電極駆動用電圧を発生する液晶表示器駆動回路であって、順次、電圧値の異なるV2H、V1H、V3L及びV2Lの中間電圧レベルの電圧を発生する複数の抵抗器を直列接続した電圧分圧回路と、前記電圧分圧回路から出力される前記V2H、V1H、V3L及びV2Lの中間電圧レベルの電圧がそれぞれ入力され、前記電圧値の順位に対応して2つのグループに分けて分けられる第1乃至第4のオペアンプと、液晶表示器を交流駆動する切り換え信号によって、前記2つのグループに分けて分けられた第1乃至第4のオペアンプを駆動状態及び非駆動状態に切り換え制御し、表示フレーム毎に反転するフレーム信号に対応して、前記第1及び第2のオペアンプと前記第3及び第4のオペアンプの2つのグループの一方がアクティブ状態とされ他方がノンアクティブ状態とされるように交互に制御するスイッチング信号を発生するオペアンプ制御手段と、前記駆動状態に設定される一方のグループの2つのオペアンプからの出力を前記液晶表示器のセグメント電極及びコモン電極に分配結合する駆動電圧出力手段とを具備することを特徴とする液晶表示器駆動電圧回路。

(2) 前記電圧分圧回路は、最高電圧レベル“V”のラインと最低電圧レベル“0”のラインとの間に直列接続された複数の抵抗によって構成され、この複数の抵抗の中央部に配置された抵抗は1組の合成抵抗を構成し、この合成抵抗を構成する複数の抵抗それぞれには並列にスイッチ回路が接続され、このスイッチ回路の制御によって前記合成抵抗値が可変されることを特徴とする請求項1に記載の液晶表示器駆動電圧回路。

(3) 前記電圧分圧回路は、最高電圧レベル“V”のラインと最低電圧レベル“0”のラインとの間に直列接続された第1乃至第5の抵抗によって構成され、各抵抗の接続点から中間電圧レベル“V2H”、“V1H”、“V3L”及び“V2L”の電圧出力が得られ、各電圧出力が前記第1乃至第4のオペアンプに入力されることを特徴とする請求項1に記載の液晶表示器駆動電圧回路。

(4) 前記第3の抵抗は、複数の抵抗から構成されると共に、各抵抗に並列にそれぞれスイッチ回路を接続し、このスイッチ回路の制御によって前記第3の抵抗の合成抵抗値が設定され、プリバイアス値が設定されることを特徴とする請求項3に記載の液晶表示器駆動電源回路。

(5) 前記第1乃至第4のオペアンプは、第1のグループのオペアンプ及び第2のグループのオペアンプに分けて構成され、前記第1のグループのオペアンプは、初段入力部をNチャネルMOSFETで構成し、前記第2のグループのオペアンプは、初段入力部をPチャネルMOSFETで構成するようにしたことを特徴とする請求項1に記載の液晶表示器駆動電源回路。

(6) 前記第1乃至第4のオペアンプは、液晶表示器の表示機能を 사용하지 ない状態を指示するパワーダウン信号が供給された状態でオフの状態に設定されることを特徴とする請求項1に記載の液晶表示器駆動電源回路。

(7) 請求項1に記載の液晶表示器駆動電源回路において、

さらに、バイアス電圧発生回路を備え、前記バイアス電圧発生回路は、バイアス信号を前記第1乃至第4のオペアンプにバイアス信号として供給し、液晶表示器の表示機能を 사용하지 ない状態で発生されるパワーダウン信号によって非動作状態に設定されることを特徴とする請求項1に記載の液晶表示器駆動電源回路。

(8) 複数の中間電圧レベルの電極駆動電圧を発生する液晶表示器駆動電源回路であって、第1乃至第5の抵抗を直列接続し、各抵抗の接続点から順次電圧値の異なるV2H、V1H、V3L及びV2Lの中間電圧レベルの電圧が発生されるように前記第1乃至第5の抵抗の直列回路の一端に最高電圧のラインを接続し、前記直列回路の他端に最低電圧のラインを接続することによって構成され、前記第3の抵抗は直列接続した複数の抵抗群によって構成され、前記抵抗群を構成する抵抗はスイッチング回路によって短絡される電圧分断回路と、前記電圧分断回路の第1乃至第5の抵抗の接続点に接続され、前記V2H、V1H、V3L

及びV2Lの電圧が入力され、2つのグループに分けられる第1乃至第4のオペアンプと、表示フレーム順に反転するフレーム信号に対応して、前記第1及び第2のオペアンプを含むグループと前記第3及び第4のオペアンプを含むグループのいずれか一方がアクティブ状態とされ、他方がノンアクティブ状態とされるように交互に制御するスイッチング信号を発生するオペアンプ制御手段と、前記オペアンプ制御手段からの指令に基づいてアクティブ状態とされるグループのオペアンプ群からの出力電圧信号を液晶表示器のセグメント電極及びコモン電極に分配供給する駆動電圧出力手段とを具備することを特徴とする液晶表示器駆動電源回路。

出願人代理人 弁理士 鈴 江 武 彦